



民児協いばらき

☆民生委員・児童委員徽章は、幸せのクローバーに「み」の文字と双葉で鳩をかたどり愛情と奉仕を表しています。

2019年(平成31年)1月15日 第82号



帆引き船 (霞ヶ浦)

(土浦市提供)

目次

- 新春のごあいさつ (会長) 2
- 第37回県民生委員児童委員大会が開催される... 2
- 新年あいさつ (知事) 3
- 全国民生委員児童委員大会に参加して 3
- 民生委員・児童委員のための相談技法研修会
に参加して 4
- 全国主任児童委員研修会に参加して..... 4
- 県民児協主催の研修会報告..... 5
- 地区民児協だより
 - ・ 水戸市..... 6
 - ・ 行方市..... 6
 - ・ 龍ヶ崎市..... 7
 - ・ 古河市..... 7
- 全国障害者スポーツ大会開催のお知らせ 8
- 県警からのお知らせ..... 8
- 編集後記..... 8

新春のごあいさつ



県民児協会長 竹内昌信

希望に満ちた新年をお迎えのこ
ととお喜びを申し上げます。

昨年は、各地で豪雪、地震、台
風など気候変動による自然災害が
多発し、尊い命を失われた方々の
ご冥福を祈り、また被災者の方々
にお見舞いと、生活基盤の早期復
興をご祈念申し上げます。

さて、民生委員制度100周年
という記念すべき縁を結ばれた
委員皆様も、改選の年となりまし
た。

民生委員・児童委員活動も、昨
今の社会変化や自然災害支援など
支援対応に苦慮する問題が多発し
てまいりました。しかし委員の基
本的活動は、長い歴史の中で「貧
困救済理念」にブレはなく、要支
援者の物質的・精神的貧困の見極
めを、速やか、かつ的確に判断し、
関係機関に対応を要請するという
ことが、地区の「担当委員」の主
たる使命であろうと確信いたしま

す。

その使命達成、さらに新たな歴
史を築くため、全民児連・茨城県
民児協が提唱する「単位民児協版
活動強化方策」を念頭に置いた
定例会運営・地域への広報活動・
委員一人ひとりの積極的発言を期
待いたします。その実践要点とし
て、

- ①地域の力を高める地域づくり
 - ②課題を抱えた人々の早期把握と
的確な支援
 - ③民生委員・児童委員制度を守り、
発展させるための委員活動の社
会的周知を進める
- 以上の目標達成に向け、この1
年地域住民の喜びの声を後継者に
引き継ぎ、人々に笑顔で感謝され、
さらに委員皆様自身が活動に自信
と誇りの持てる年となることを期
待申し上げ、年頭のあいさつとい
たします。

第37回茨城県民生委員児童委員大会が開催される

県民児協評議員 坂野 徹

柿の実も日毎に色づきを増す清秋
のもと、第37回茨城県民生委員児童
委員大会が、平成30年10月26日、茨
城県立県民文化センター大ホールに
於いて、盛大に開催されました。

式典に先立ち、全国民生委員児童
委員連合会会長、得能金市氏のご講
演がありました。「次なる100年
に向けて」全国民生委員児童委員連
合会の取り組み」との演題で、こ
れまでの民生委員が果たしてきた役
割や課題等についてお話いただきました
した。その中で、特に次のことが私
の心に強く残りました。

- 経験の浅い委員が全体の6割を占
めるなか、委員同士の支え合い、
単位民児協による委員支援が一層
重要となつている。自分一人で抱
え込まないよう意識することが
大切。
- 民生委員・児童委員は専門職では
ない。あくまで住民の「見守り役」、
必要な支援への「つなぎ役」であ
ることを意識し、「民生委員だか
ら」と過度に責任を感じる必要は
ない。
- 「できることを、できる範囲で」
が長続きのポイント。

● 自らが笑顔でいられてこそその民生
委員・児童委員活動。笑顔が住民
の安心感、信頼感につながる。
・ ・ ・ 正に、今後の活動への安心
感と指針をいただいた思いがいた
します。

式典では、国歌斉唱、物故者13名
への黙祷、信条朗読、竹内会長の主
催者あいさつと続いた後、顕彰に移
り、茨城県民生委員児童委員協議会
会長表彰を24名の方が受けられまし
た。その後、来賓祝辞、来賓紹介、
受賞者代表謝辞、大会宣言採択、そ
して最後に全員での民生委員の歌の
斉唱で大会が終了いたしました。



新年あいさつ



茨城県知事 大井川 和彦

新年あけましておめでとうございます。

民生委員・児童委員の皆様には、日頃から地域住民の方々に対する様々な相談や援助活動を通して、社会福祉の向上に多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新年の始まりにあたり、少子高齢化や第4次産業革命、グローバル化など、日本を取り巻く環境が激変する中で、まさに今、本県は将来を決める大きな歴史の転換点にいるとの思いを強くしています。将来に向かって本県をさらに飛躍させるため、昨年末策定した県総合計画の基本理念である「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向け、果敢に挑戦してまいります。

医師確保をはじめとした県民の命を守る医療・福祉の充実や人生百年時代を見据えた健康づくり、

災害に強い県土づくりなど、県民生活の基本となる安心安全な生活基盤を一層充実してまいります。

あわせて、これからの茨城を創る大切な子どもたちがグローバル社会で活躍できるように教育環境の整備に努めるとともに、日本一子どもを産み育てやすい県を目指してまいります。

この挑戦には、行政だけでなく、本県に関わる全ての皆様と県政の方向性を共有し、それぞれが「自分のこと」として考え、行動していただくことも必要です。

県民の皆様と一丸となって着実に歩みを進め、活力ある新しい茨城づくりに「猛進」してまいります。と考えておりますので、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

皆様にとりまして、本年が実り多き素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

全国民生委員児童委員大会に参加して

県民協理事 鈴木直美

平成30年9月27日～28日、全国の民生委員・児童委員が一堂に会して交流する「第87回全国民生委員児童委員大会」の式典が沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催されました。全国より3400人(本県から30人)が参加しました。

本会では東北や熊本といった被災地への支援の継続や、地域で幅広く連携し共生社会づくりに取り組むことなどが宣言されました。

全民児連会長の得能金市氏は、今年には民生委員法施行から70年の節目に当たるとし「記念すべき年に沖縄で初めて全国大会を開催できるのは非常に意義がある。民生委員に寄せられる期待は大きくなっており、全国が一つとなってさらなる取り組みを進めていく」と式辞を述べました。その後全国民生委員児童委員連合会会長表彰(本県408名)特別講義「世界制覇への道」頂点へのこだわり」と題して沖縄劉衛流(りゅう

うえいりゅう)空手古武道龍鳳会会長佐久本嗣男氏による世界大会7連覇に到るまでの話や、今年世界大会個人形優勝の喜友名諒(きゆなりよ)氏の気迫あふれる実技を披露しました。アトラクションで琉球舞踊を見た後、大会最後の28日の分科会では台風24号接近で中止となり、30日までの2日間ホテルで情報交換し、有意義な時を過ごしました。



民生委員・児童委員のための 相談技法研修会に参加して

坂東市岩井地区民児協会長 花 島 美津子

平成30年度の民生委員・児童委員のための相談技法研修会が10月18日～19日の2日間、全国から147名が参加してアパホテルリゾート東京ベイ幕張ホールで開催され、茨城県からは遠藤委員と花島の2名が参加し、1グループ5～6名で25グループに分かれて行なわれました。2日間とも元梅花女子大学准教授植田寿之氏を講師にご指導頂きました。

1日目は相談援助の視点と態度と相談・支援活動のポイントについて、研修ビデオで学習し、事例についてグループで話し合い、その後グループ毎に発表しアドバイスを頂きました。相談・支援活動のポイントとしては、①きっかけづくり ②相手の立場に立つ ③相手の思いを受け止める という事でした。又交流会は、昼のグループと別のグループに分かれ、他県の方々との交流はとても新鮮な意見交換ができ、楽しい一時となりました。

2日目は、相談、支援活動の原点

と本質、傾聴の基本や相談面接技法の講義を受けました。相談面接のロールプレイを行い、各グループの結果発表を行い、2日間の研修が終了しました。

この研修で、相手との安心感や信頼感を深め、支え合い、人との関係の中でいかに生きるかが大切かを実感致しました。この貴重で有意義な体験を今後の民生委員・児童委員活動に生かせるよう心して努めてまいります。



全国主任児童委員研修会に参加して

坂東市主任児童委員 吉 田 幹 秀

平成30年度全国主任児童委員研修会(東日本)が、7月25日～26日、新横浜プリンスホテルで、茨城県からの6名を含む267名が参加して開催されました。

1日目は、全民児連副会長 庄司健治氏の挨拶と厚生労働省子ども家庭局子育て支援課の行政説明の後、明治学院大学 松原泰明学長による「新たな児童委員活動強化推進方策の実現に向けて」と題した講義がありました。子どもの声の届きにくい現在、主任児童委員がこどもの声を聞こえる場所、子どもサロン・放課後児童クラブなどへ係ることから子どもと居場所を「つなげる」ことが可能になる。また、スーパー主任児童委員になる必要はなく民児委員とともに活動することが重要で、すべての活動は地域、関係機関とのネットワークワーキングが大切と話されました。

続くシンポジウムは「子どもたちの健やかな育ちを支えるために」というテーマで、コーディネーターの至誠学舎立川常務理事 高橋久雄氏のもと、(一財)児童健全育成推進財団総務部長 阿南健太郎氏、(社

福)大洋社常務理事 斎藤弘美氏、神奈川県藤沢市片瀬地区民児協主任児童委員 松本眞理子氏がそれぞれの立場からの発表がありました。

2日目は、「主任児童委員が果たすべき役割」をテーマに8人が1グループになりワークショップ形式で話し合いが持たれました。

この研修会を通じて主任児童委員がネットワークのハブ的存在となつて、それぞれの地域や立場の特性に則した形で、各種の活動が展開されていることを知ることができ大変勉強になりました。



◆県民児協主催の研修会報告

▼市町村民生委員児童委員協議会 会長・副会長合同研究協議会



平成30年度会長・副会長合同研究協議会が、県北・県央・鹿行地域(6月21日、22日)・県南・県西地域(7月5日、6日)の2回に分け、373名が参加して、大洗シーサイドホテルにおいて開催されました。

1日目は、県福祉指導課(平成30年度民生委員の定数を定める条例の改正スケジュールについて)、県地域ケア推進課(介護保険法と生活支援体制整備について)、3単位民児協(6月21日北茨城市・那珂市・小美玉市、7月5日土浦市・利根町・古河市)における活動発表がありました。

2日目は、桜美林大学健康福祉学群特任教授 大溝茂氏による「地域住民の新たな生活を支える仕組みづくりのために」その人らしい生活」の実現と民児協活動を考える」と題して話されました。続いて、県義務教育課(本県のいじめの現状と課題)、県高校教育課(関係機関と連携した生徒指導)からの行政講話がありました。

▼市町村民生委員児童委員教室

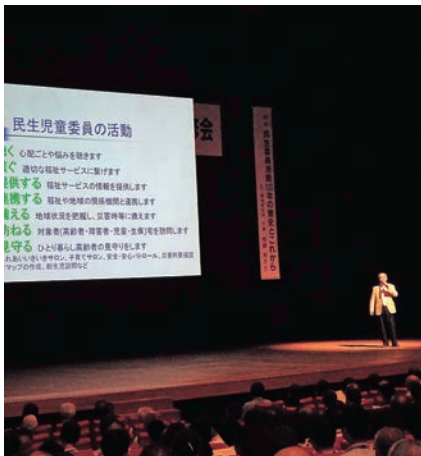


平成30年度市町村民生委員児童委員教室が、県北・県央・鹿行地域(9月20日、21日)、県南・県西地域(10月4日、5日)の2回に分け、390名が参加して、大洗シーサイドホテルにおいて開催されました。

1日目は、泉恵造研修企画工房 泉恵造氏による「“伝承の制度”を受け継いでいこう!」と題して話されました。続いて、3単位民児協(9月20日水戸市・茨城町・神栖市、10月4日牛久市・河内町・桜川市)における活動発表がありました。

2日目は、県地域ケア推進課(介護保険法と生活支援体制整備について)、県警交通総務課(警察における高齢者対策について)、県義務教育課(本県のいじめの現状と課題)、県高校教育課(関係機関と連携した生徒指導)からの行政講話がありました。

▼民生委員児童委員全体研修会



平成30年度民生委員児童委員全体研修会(8月31日)が、1011名が参加して茨城県立県民文化センターにおいて開催されました。KT福祉研究所代表 松藤和生氏を講師に招き、「民生委員活動100

年の歴史とこれから」と題して話されました。続いて、県警交通総務課(警察における高齢者対策について)からの行政講話がありました。

▼主任児童委員研修会



平成30年度主任児童委員研修会(7月27日)が、341名が参加して、茨城県総合福祉会館において開催されました。

特定非営利活動法人NGO未来の子どもネットワーク代表 かさいひろこ氏を講師に招き、「貧困といふしんどさの中で、生きていかなければならない僕たちの声をきいて下さい」と題して話されました。続いて、3地区代表者(東海村・神栖市・利根町)から活動報告がありました。続いて、県立こころの医療センター(こころの医療センターの児童思春期外来と児童思春期病棟の取り組み)の行政講話がありました。

(県民児協事務局)

協 だ よ り

水戸市

水戸市渡里地区民児協の活動について

水戸市渡里地区民児協会長 横川 洋一

私たちの渡里地区民児協は水戸市の北西部に位置し、渡里台地と言われ昔から重要な館(台渡里官衙)の址が有り政治の中心の地でした。そのような歴史のある地区で、渡里・堀原の二つの小学校区を担当し33名の民生委員・児童委員(うち主任児童委員2名)が活動しています。

当地区も、高齢化が進み、高齢者の擁護見守りが活動の中心でありかつ基本でありました、昨年より「高齢福祉部会」を含め、「児童福祉部会」「障害福祉部会」「生活福祉部会」の四つの専門部会の活動を今まで以上に活発化しました。

まずは、行政と一体になって活動することを重視し、出来るだけ結論が早く出て適切なバックアップをいただきやすくする為に、年初の定例会に各課の責任者に来て頂き各部会の委員との話し合いの場を持ちました。そして毎月の定例会に於いて当日参加する行政の担当課に合わせて発表・質問などを行ない、又定例会後などの時間を利用して介護老人ホームやデイサービス等の高齢者支援施設・保育所・幼稚園・小学校・障がい者支援施設など、訪問活動も積極的に行なっています。

そうしたなかで気付いた問題点は、表からは見えない・見えづらい事が多く有るということです。ほとんどは行政からの情報・提案に基づくしか有りませんが今後の課題として前向きに取り組んで行きたいと思いま



行方市

行方市玉造地区民児協活動について

行方市玉造地区民児協会長 代々城 一成

人口3万5千人の行方市は、麻生・北浦・玉造の3つの地区にて活動しており、玉造地区は、29名(うち主任児童委員2名)の委員で構成されています。

行方市では、近年は人口の減少が続いており、平成27年の国勢調査では、県内市町村の中で7番目の減少率(対22年比)となっているほか、高齢化率は31・5%に進行するなど、地域社会の状況が変化しています。福祉対象者の増加に伴い、新たな福祉ニーズが生まれる中、民生委員・児童委員にかかる役割、期待も非常に大きく、住民が安心して暮らせるために必要不可欠な存在になり、期待が大きくなればなるほど負担は増え、資質も問われるようになってきているため、玉造地区民児協では、自主的な研修活動や資質の向上を図るための研修会等を行っています。

その中でも、例年行っている宿泊での県外研修では、他市町村の福祉活動等について学び地域文化を見学し、わが街との違いについて考え、視野を広げ、更には、民生委員・児童委員の活動の中で重要な委員相互の情報の共有や交流等を図り、取り組んでいます。

最後に、玉造地区民児協は、一人暮らし高齢者をはじめ、地域の住民が、住みなれた地域で安心して暮らせるよう、生活支援相談や見守りを中心に行行政及び関係機関と連携をとりながら、日々活動を展開しています。

今後も委員相互が連携し、地域住民の一番身近な相談窓口として、地域の実態を把握し住民側に立った、行政とのパイプ役も担っていきたいと思います。



地 区 民 児

龍ヶ崎市

龍ヶ崎市竜ヶ岡地区民児協活動について

龍ヶ崎市竜ヶ岡地区民児協会長 三浦 能

龍ヶ崎市は4地区(竜ヶ岡・西部・中央・愛宕)118名(主任児童委員8名)で、竜ヶ岡地区は34名(主任児童委員2名)で定例会等を通し学びあい、日々の地域活動を各機関と協力しながら行なっています。

十年前、地区内の城ノ内中学校が荒れて、地域住民からも対応の声が挙げられるようになりました。民児協委員が各機関と協議し「城ノ内中学生徒下校時見守り活動」を平成25年4月から開始しました。月一回下校時に中学生への声掛けをしています。

当初「お帰り」等々、見守りをする人達からの言葉に、「戸惑う生徒もいましたが、回を重ねる毎に変化し生徒自らが挨拶をしてくるようになりました。

半年程経過した頃、生徒指導主事の先生から「学校が変わり始めました。教師の意識が変わり、それに伴い、生徒の意識も変わりました。今までは地域から非難され疎まれていた存在でしたが、理解し、認め、支えてくれる地域の人の声が自分たちを暖かく包んでいてくれる事を教師も生徒も実感したからです。」という言葉を聞く事が出来ました。

現在城ノ内中学校は平静を取り戻し、学業に部活動に地域活動にめざましい成果をあげています。今後は、中学生と共に、「支えあう 住みよい社会 地域から」を押し勧めて行きたいと願っています。



古河市

古河市民児協の活動について

古河市民児協第1地区会長 大橋 修

古河市は茨城県の西端、栃木・群馬・埼玉との県境に位置します。人口14万4千人、5つの単位民児協で構成され、228名の委員で活動しています。

私の所属する第1地区には、小学校6校、中学校3校、県立高校1校があり、57名(うち主任児童委員3名)の委員で担当しています。

日頃の活動としては、高齢者世帯や独居世帯の台帳作成、対象世帯の訪問・見守り活動などを行なっております。また数年前からは夏場の訪問活動の際に、熱中症予防チラシを渡して注意喚起を行っています。

そうした普段の活動において、増加する高齢者を把握することの難しさ、委員個人での情報収集の難しさを感じる時があります。

私は、出来る限り地元の行事等に顔を出すよう、各委員にお願いしております。委員として担当区域を持つ以上、地元との繋がりは不可欠であり、そうした場に参加することが、情報の収集、信頼関係を深める機会と捉え、多くの住民に民生委員の存在を理解してもらう良い機会であると考えています。

今後、災害時の要支援者に対する対応など、ますます地域との連携が重要となりますので、信頼される民生委員を目指して活動に取り組みたいと考えております。



◆全国障害者スポーツ大会 開催のお知らせ

茨城県国体・
全国障害者スポーツ大会局

「いきいき茨城ゆめ大会開催！」

2019年10月12日～14日に、第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」が開催されます。全国障害者スポーツ大会は、本県では初めての開催であり、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与するとともに、障害の有無にかかわらず、すべての人がともに歩み幸せに暮らせる社会を目指す大会としています。

大会では、開会・閉会式の会場となる笠松運動公園をはじめ、会場地となる7市（水戸市、日立市、結城市、常陸太田市、取手市、つくば市、ひたちなか市）15会場において、陸上競技や卓球などの個人6競技、ソフトボールやサッカーなどの団体7競技のほか、6市（水戸市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、神栖市）においてブライントennisやスポーツウエルネス吹矢など6つのオープン競技が実施されます。

県内外から選手や関係者の皆様が大勢来県されることから、ボランティアや花いっぱい運動など県民総参加により大会の機運を盛り上げ、おもてなしと思いやりの心でお迎えしたいと考えております。また、県民一人ひとりの皆様が大会の開催を通して、障害者スポーツに親しみ、感動し、共感できるようにしてまいります。

開催まで残すところ9か月余りとなりました。大会に参加される全員が「参加してよかった」と思える大会にしてまいりますので、民生委員・児童委員の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。ぜひ、一緒に大会を盛り上げていきましょう！



いきいき茨城ゆめ大会
マスコット
いばラッキー

県警からのお知らせ

●「二七電話サギに気をつけましょう」

県内では、警察官や銀行員などになりすまし、「個人情報ももれている」「口座から不正な引出しがある」「キャッシュカードを交換する」などと言い、カードをだまし取るサギが多発しています。

電話の相手から、

- ◆ 「携帯電話番号が変わった」
 - ◆ 「今日中に現金が必要」
 - ◆ 「暗証番号を教えて」
 - ◆ 「キャッシュカードを預かる」
- などと言われたらサギです。

必ず家族や警察に相談を！

サギの防止には「留守番電話の設定」「迷惑電話防止機能付き電話機の設置」が有効です。

警察官や銀行協会、郵便局員等がキャッシュカードを取りに来ることは絶対ない！

警察相談専用電話#9110【24時間対応】
二七電話詐欺相談ダイヤル029-301-0074

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年は平成31年亥年、慣れ親しんだ「平成」の元号から、新元号に踏み出す清々しい飛躍の年を迎えました。

昨年は、民生委員制度創設101年目となり、次なる100年に踏み出すスタートの年と位置づけられた重要な年でした。スローガン「支え合う 住みよい社会 地域から」の実現に向け、各委員の皆様には大変なご努力を頂いたと思います。

私達が見守る地域社会は、待ったなしに進む高齢化とそれに伴う高齢者の孤立化、社会情勢の不安感を背景に一人様の増加傾向、少子化と枚挙に暇がないほど問題が山積しております。とはいえ、新しい元号となるこの良き年に、見守り活動の際の「笑顔」を忘れず「笑顔」で話を伺い、「笑顔」で相づちをうつ活動を心がけたいと思います。

ちなみに編集委員会は穏やかな笑いに絶えず包まれております。

編集委員 中村弘行

発行人
一般財団法人
茨城県民生委員児童委員協議会
会長 竹内昌信

〒310-0851
水戸市千波町1918
茨城県総合福祉会館内
TEL 029-243-5361
FAX 029-243-5902

http://www.ibaraki-minjikyo.or.jp
E-mail:iba-minjikyo@bz01.plala.or.jp